

東京湾奥浦安発↓本牧沖

フナシゲライター 竹川啓一 Keiji Takekawa

本牧沖でカサゴがバリ食い メバルも交えて根魚好調!

東京湾では、初夏に向かってメバルやカサゴの食いが活発になってきた。メバルもカサゴも竿先をたたくような引きを楽しませてくれるが、何より両魚とも食べておいしいのが魅力。ダブルキャストで

狙えるこの時期はとくに人気が高い。今回出かけたのは東京湾奥浦安の老舗船宿「吉野屋」。大型船を何隻も保有する同宿は東京湾の主だったターゲットトに乗合船を出して、休

日もなると大勢の釣り客でにぎわいを見せる。ベテラン、常連さんはもちろん、レンタル道具も充実し手ぶらでも安心して楽しめる。ベテランも初心者にも人気がある。メバル・カサゴに限らず他魚種でも、

これから船釣りデビューする方におすすめの宿である。

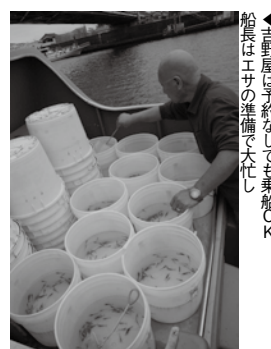
開始早々カサゴ連発

出かけた4月3日は日曜日とあって、船宿も桟橋もにぎやか。船上の釣り人もすでに大半の方が準備を終え出船を待ちわびている。メバル・カサゴ船担当の青山隆雄船長は、

「お客さんが何人来るかわからないからなあ」と言いつつエサの準備に大忙しである。

3人組が最後に乗り込んできて合計14人の釣り人が集まり定刻の7時に河岸払いとなった。

小一時間ほどで到着したのは湾奥根魚の定番スポット本牧沖。メバル、カサゴ両狙いが期待でき、シーズン中は釣り船の絶えない好釣り場である。到着したときもすでに先



吉野屋は予約なしでも乗船OK。船長はエサの準備で本忙し。

出船前のレクチャー必聴!

知得! Tips and Tricks

メバルとカサゴは根魚の仲間だが、生息場所や釣り方は相反する。出船前に船長から両魚の釣り方のレクチャーがあるので初心者も聞いたほうが安心。釣果アップ間違いなしだ。ベテランも目からウロコの情報が見られるかも!



出船前の船長のレクチャーは6時半ごろからスタート。

着の船が思い思いのポイントで釣りの真つ最中だった。当日は予報にない風と波で海はボチャボチャと少々荒れ気味だったが、堤防や岸壁の陰に入るとそれも気にならず穏やかに釣りができた。これも本牧沖の特徴で、風向きによって逃げ場があるのがありがたい。



●たけかわ けいじ/プロフェッサー青山(船長)の講義(レクチャー)に思わず聞き入ってしまった。初めての方必聴ですぞ!

Tackle Guide

全長2.7メートル前後のエビメバル専用竿と小型両軸、これにエビメバル仕掛けが基本。ゲームロッドなど短い竿を使用する場合は、仕掛けの幹糸部分を上下カットして短くすれば扱いやすくなる。カサゴ狙いに特化するならキス竿やカワハギ竿でもOK。

ロブルム! カサゴ好きなら専用仕掛け(2本バリ)に切り身で狙うのが効果的。オモリはどちらも20号を使用する。船長はある程度釣ったらポイントを移動するラン&ガンで攻めていく。10時ごろまでに、手慣れた常連さんたちは20センチ前後のカサゴを主体に20〜30尾ほど釣り上げおおよそはバッチシ確保。しかし船長的には、この食いでは納得できないようだ。

後半はほぼ入れ食い!

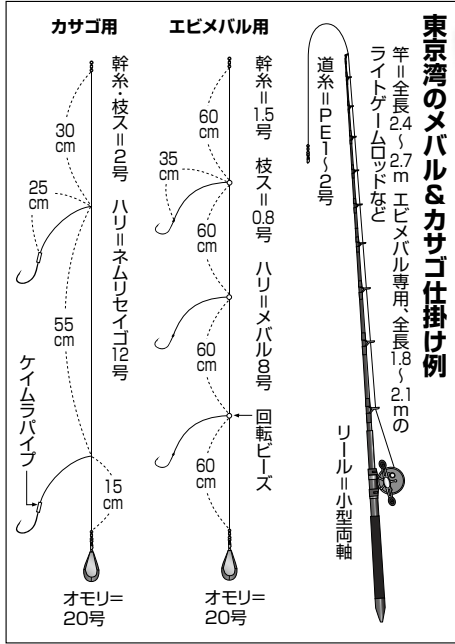
潮が変わった11時過ぎ、状況は一変してがぜん食いがよくなりアタリも頻繁に出るようになってきた。サイズがアップしてきたのも遠目でも

分かるほど。前半はまぼろし状態だったメバルも釣れ始め、船長も船上も次第に活気づいてきた。中にはメバルとカサゴでダブルの人も。また当日の「紅一点」の女性はカサゴのダブル、トリプルと絶好調。当初戸惑い気味だった貸し竿3人組も、船長が驚くほどの連釣りに自然と笑みがこぼれている。

結局この食いは午後2時の沖揚がりまで続き、竿頭は切り身エサでカサゴ専門に狙った方が57尾。女性も前半は苦労したようだが、終わってみれば25尾と大健闘。スンでも19尾とまずまず。サイズは14〜27センチで20センチ前後が



▲カサゴは20〜23センチがアベレージ



▲メバルは20センチ前後が多かった

船宿information

東京湾奥浦安 **吉野屋**

☎047-351-2544 (詳細は巻末の情報欄参照)

青山 隆雄船長

▶料金=メバル・カサゴ乗合一人1万500円(エサ付き)、女性・子ども割引あり

▶備考=7時出船。ライトアジ、フグ、トラフグ、タチウオ、シロギス、ヤリイカ、アナゴも

さらに浅くなって初心者の方でもお手軽に楽しめます」と話していた。

待ちに待ったゴールデンウィークのお手軽釣りレジャーとしてイチ推しです!